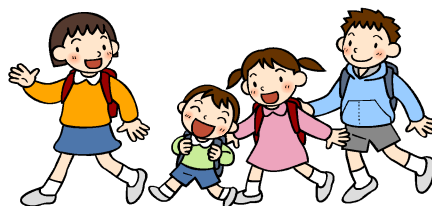


「純朴にしてたくましい子ども」をめざした、学力向上の取り組み ～令和6年度 全国学力・学習状況調査 結果と考察～

1 学力状況調査の結果

今回の調査では、北山小学校の平均正答率は、国語は全県及び全国の平均正答率と同程度、算数は若干下回る結果となりました。調査結果からは以下の傾向が捉えられました。



(1) 国語

今回の結果を学習の内容ごとに見ていくと、北山小学校の子ども達は、「読むこと」「我が国の言語文化に関する事項」「話すこと・聞くこと」の内容はよくできていますが、「書くこと」「情報の扱い方に関する事項」の内容はさらに力をつけていく必要があります。具体的には、登場人物の心情を理解したり、適切なコミュニケーションの仕方を考える学習はよくできていますが、目的に応じて書き表したり、情報を分類したり整理したりする学習は、さらに力をつけたいと思います。

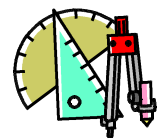
また、通知表にある評価の観点別に見ていくと、「知識・技能」に関する内容と、「思考・判断・表現」に関する内容は、同じくらいの理解度でした。



(2) 算数

今回の結果を学習の内容ごとに見ていくと、北山小学校の子ども達は、「数と計算」「図形」の内容はよくできていますが、「データの活用」「変化と関係」の内容は、さらに力をつけていく必要があります。具体的には、公式に当てはめて式に表したり、計算の仕方を考えたりする学習はよくできていますが、図形（見取り図・展開図）やグラフ・データの読み取り、「速さ」の学習は、さらに力をつけたいと思います。

また、通知表にある評価の観点別に見ていくと、「知識・技能」に関する内容よりも、「思考・判断・表現」に関する内容の方がよくできていました。



2 学習状況調査(児童質問紙)の結果

日頃の学校生活や学習に関する、選択式による質問紙の結果は以下の通りです。

「あてはまる」「している」を選択した子どもが多かった項目

- ・先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか
- ・学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか
- ・先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか
- ・国語の勉強は好きですか
- ・算数の勉強は好きですか
- ・国語の授業で、物語を読むときに、登場人物の性格や特徴、物語全体を具体的にイメージし、どのような表現で描かれているのかに着目していますか
- ・算数の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか
- ・算数の授業で学習したことを、今後の学習で活用しようとしていますか

「あてはまる」「している」を選択した子どもが少なかった項目

- ・困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか

- ・総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか
- ・算数の勉強は大切だと思いますか

3 結果をもとにした今後の取り組みについて

〈国語に関わって〉

- ・相手に伝わるように工夫して表現する力が比較的優れています。日々の学習における「対話」の機会を引き続き大切にし、自分の考えを相手に伝える力をさらに高めていきます。



・物語の主人公に心を寄せ、共感的に捉える力が比較的優れており、子ども達の心情面の豊かさが感じられます。そのことには、日々の読書が影響していると思われます。子ども達が日々の読書の中でその良さを感じ、読書を通してたくさんの感動を得ていることも、調査結果に表れていました。国語の学力につながる読書活動の充実を今後も進めていきます。

- ・自分の考えは書けるけれども、目的に応じて事実と感想を区別して書くことには苦手さが伺えます。目的に応じて書き方を工夫する学習を重ねていきます。子ども達のやる気を大切にした指導を心がけていきます。
- ・本やインターネットなどの資料から自分が必要とする情報を読み取り、それをもとに自分の考えを持つ学習を、学年に応じて進めていきます。それにより、情報を活用する力を高めていきたいと思えます。今行っている学習に関係する本を身近に置くなど、情報に触れることのできる環境づくりにも取り組んでいます。
- ・児童質問紙において、国語・算数ともに「勉強が好き」「授業の内容がよくわかる」と答える子どもが多く、学習への手応えを感じていることが伺えます。ただし、「国語・算数が大切」と考える子どもは比較的少なく、今学んでいることと日常生活とのつながりを感じられるよう、体験的な学習の機会などを大切にしていきます。

〈算数に関わって〉



・子ども達はこれまでの積み重ねの中で、自分なりに着実に計算力を身に付けてきています。しかし、どのような計算をすればよいか考えたり、それを説明したりする力はさらに高めていく必要があります。学習をスモールステップで進めたり、具体物を使用したり、体験的な学習を取り入れたり、タブレットを活用したりする等、子どもたちの得意・不得意に応じた学習を心がけます。また、ペア学習、グループ学習を取り入れるなど、子ども同士が学び合い、教え合ったりすることを大切にしています。

- ・児童質問紙において、全ての子どもが「解き方がわからない時も、諦めずにいろいろな方法を考える」「算数で学習したことを今後の学習で活用したい」と答えており、「難しい」と感じる場面でもあきらめずに、日々がんばっていることを感じます。「先生が自分のことを認めてくれる」「わかるまで教えてくれる」という思いが背景にあることも伺えます。算数テストの見直し等分かるまでとことん付き合う中で、自分から「分からない」と質問できる姿が増えてきています。今後も、子ども達一人ひとりに寄り添う丁寧な指導を進めると共に、学力向上の前提となる学級づくりを大切にしていきます。



10月に実施した相談週間では、担任だけでなく全職員が子ども達に関わり、学校生活について話を聴きました。何か困ったときに、どの先生にでも助けを求められるよう、引き続き「全職員で全ての子どもを育てる」ことを大切に、子ども達の良さを認め伸ばす指導を継続していきます。